

米FDAはアフリカへのエイズ治療薬の供給を妨害

2005年6月29日

北沢洋子

米政府は、アフリカにエイズ患者に供給されるジェネリック薬については米FDA（食料医薬品局）の認可が必要だとする法律を発効させた。

これは米国FDAとWHOなど国連の医薬品の認可についての規約が一致していないことから来ている。

その結果、アフリカで今、緊急に必要とされている安いエイズのジェネリック薬の供給を遅らせるものである。

ナイジェリア、ウガンダ、エチオピア、タンザニアなどアフリカ4カ国政府は、エイズ治療薬のジェネリック薬を製造している南アフリカの ASPEN Pharmacare 社に対して、「米FDAのエイズ治療薬の認可は全く根拠のないもので、すでにWHOの安全と品質管理についての認可で十分である」と申し入れを行った。アフリカ諸国はすでにWHOの加盟国であって、WHOの認可で十分だと言っている

また、米政府、国連、アフリカ政府間でこの問題をめぐって、激しい電話会話の応酬があった。たとえば、米政府のトビアス・グローバル・エイズ調整官はリーWHO事務局長に対して、電話で、「国連が米FDA認可の治療薬を直ちに認可するよう」要求した。

WHOはこれまでのところ、年間200ドルの費用がかかるエイズのジェネリック治療薬を使っている。しかし、米政府のエイズ対策ではFDAがすでに認可した年間500～800ドルもかかる治療薬を購入している。つまり、WHOにより高い治療薬を使用させようとしている。そして、米政府が6ヵ月後に、ジェネリック薬を採用するといっているが、はたしてそうなるかは明らかではない。

もし、このプロセスが長引けば、国連はエイズ患者の登録を続けるだろうし、そうなれば、治療薬を待つ長い患者の待ちリストが出来てくるだろう。そして、国連のグローバル基金の財政は高い治療薬に支払うコスト増で大きな赤字になるだろう。